

2015年度 卒業研究

主査 浦野正樹 先生

題目 社会的効果をもつスタジアム建設の在り方  
—埼玉スタジアム2002にみる問題点と提言—

文化構想学部 社会構築論系

学籍番号 1T100378-2

氏名 桑原伸治

## 目次

### 1 序章

#### 1-1 動機

#### 1-2 対象地

#### 1-3 展開

### 2 埼玉スタジアム2002

#### 2-1 埼玉スタジアム2002 概要

#### 2-2 埼玉スタジアム2002の観戦者数

### 3 スポーツによる地域への社会的効果に関する先行研究

#### 3-1 「観る」スポーツ

#### 3-2 社会的効果とは

### 4 スタジアムの分類および分析

#### 4-1 「都市型」と「地方型」

##### 4-1-1 「都市型」

##### 4-1-2 「地方型」

##### 4-1-3 「歴史型」という特異

#### 4-2 沖縄県の事例

### 5 埼玉スタジアム2002の問題点

#### 5-1 FIFA ワールドカップ日韓共同開催大会の功罪

#### 5-2 周辺の様子

#### 5-3 人口にみる

#### 5-4 中野田、下野田地区の土地開発計画

### 6 社会的効果をもつスタジアムの在り方

#### 6-1 目指すべきスタジアム

#### 6-2 海外の事例

### 7 終章

#### 7-1 まとめ

#### 7-2 謝辞

## 1. 序章

### 1-1 動機

「埼玉スタジアム 2002」は、日本最大のサッカー専用スタジアムである。今でも頻りにプロのサッカーを観戦する場所である。機会があるごとに、頻りにサッカー観戦に訪れている。また、都合がつかないときにでも、テレビ中継や、スポーツニュースでの速報で、「埼玉スタジアム 2002」で行われていた試合結果を見る。そのスタジアムにも、危惧する点がある。今回、機会を与えていただいた。よって、それについて言及したい。そして、今後のスタジアム建設の在り方について、提言することができれば、幸いである。

2007年11月14日は、忘れられない日である。

埼玉県さいたま市に本拠地を置く、日本プロサッカーリーグ 1 部、通称 J 1 に所属する浦和レッドダイヤモンズというチームがある。その夜、日本で初めて、アジアの頂点に輝いた。「埼玉スタジアム 2002」には、平日の夜にも関わらず 59,000 人以上の観客が押し寄せた。イランのセパハンと 2 対 0、2 戦合計 3 対 1 で破った AFC チャンピオンズリーグ初優勝であった。

そして、ときは 2015 年。

日本はあるひとつのものに向かって、刻々と準備を始めている。

2020年7月24日、東京。東京都新宿区霞ヶ丘町 10-2。その場所に、世界中の注目が集まる。新国立競技場、オリンピックスタジアムには、世界中のスター選手が集まる。日本の、世界の未来ある子供たちが、目を輝かせる。たったの 17 日間。しかし、それは紛れもなく我が国にとってその後を占う転換点となる。何よりも、安全に終えること。そして、人々に感動を与えること。我が国、日本のすばらしさを、改めて世界中に発信すること。日本、ここにあり、と見せつけること……。第 32 回オリンピック競技大会( The Games of the XXXII Olympiad )が持つ意味はさまざまである。そして、それは日本の歴史に刻まれる。

そもそも、オリンピックとは何か。これほど、世界中の人々が一同に注目する行事もないと言っても過言ではない。みなさんもご存知の通り、4 年に 1 度開催される世界的なスポーツの祭典である。フランスの教育者であった、ピエール・ド・クーベルタン( Pierre de Fredy, baron de Coubertin )男爵の働きかけによって、近代オリンピックが生まれる。1896 年、ギリシャ・アテネの地で、記念すべき第 1 回オリンピック記念大会が開催された。日本でオリンピック競技大会が初めて開かれたのは、1964 年。第二次世界大戦( World War II )後、世界へ復興をアピールする絶好の機会となった。また、国内でも東海道新幹線や首

都高速道路の開通など、1980年代に向けた高度経済成長へのきっかけとなった。<sup>1</sup>

2015年現在、2020年東京オリンピックに向けて、さまざまな準備が行われている。

2011年11月28日、2020年オリンピック・パラリンピック競技大会招致委員会第1回協議会が開かれた。翌年2012年1月23日の段階で、65.7%の支持があった（以下、表1参照）。その後、第5回調査では73%まで賛成を伸ばしている。さらには、2012年5月24日、東京、トルコのイスタンブール、そしてスペインのマドリードが2020年オリンピック・パラリンピック競技大会の立候補都市に選定された。様々な招致活動が続けられた。すべては、オリンピックを日本で、東京で、開催するために。

そんな中、2012年6月8日に、委員会が出した試算がある。そこには、2020年に東京でオリンピックを開催した場合の経済効果予測があった。これを見るかぎり、かなりの波及効果が表れている(以下表2参照)。15万人以上の雇用が見込まれる。

そして、2013年9月8日、2020年に東京オリンピック・パラリンピック開催が決定した。

※小数点以下四捨五入

	【参考】 IOCによる世論調査(H24年5月24日公表)	*招致委員会による 第1回調査(ロンドン オリンピック開会前 (H24年7月14~ 22日調査))	*招致委員会による 第2回調査(ロンドン オリンピック開会后 (H24年8月18~ 30日調査))	*招致委員会による 第3回調査 (H24年10月10~ 22日調査)	*招致委員会による 第4回調査 (H24年11月22~ 12月2日調査)	*招致委員会による 第5回調査 (H25年1月10~ 20日調査)
賛成 (Support)	47%	58%	66%	67%	66%	73%
どちらでもない (No opinion)	30%	26%	20%	21%	20%	15%
反対 (Against)	23%	16%	14%	13%	14%	12%

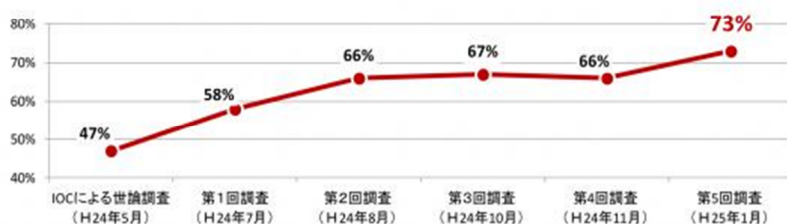


表1 (<https://tokyo2020.jp/jp/news/index.php?mode=page&id=566> より)

(単位:人)

項目	雇用誘発数
東京都	83,706
その他の地域	68,496
全国	152,202

表2 (<https://tokyo2020.jp/jp/news/index.php?mode=page&id=189> より)

<sup>1</sup> <https://tokyo2020.jp/jp/olympics/> より

過去である 2007 年と、未来である 2020 年。今あげた 2 つの話に、共通して関わるスタジアムがある。それが、「埼玉スタジアム 2002」である。来たるオリンピックでも、サッカーの試合会場として、すでに候補地とされている。ところが、地域における「埼玉スタジアム 2002」の在り方は、少し問題があるように思える。こちらに関しては、後ほど言及する。人々に幾度となく感動を与えるスタジアム。しかし、日常に戻り、少し客観的に見るだけで、見え方は変わってくるのだ。今回は、そんな「埼玉スタジアム 2002」の問題点を探り、今後のスタジアムの在り方を探っていく。

## 1-2 対象地

今回の対象地は、「埼玉スタジアム 2002」とする。2002 年 FIFA が主催する日韓共同開催のワールドカップの会場の 1 つとなった。アジアで初めてのサッカーワールドカップ開催に向け、日本各地にいくつもの陸上競技場、およびサッカー専用スタジアムが建設された。また、招致活動の 1 つとして、都心近郊にどうしてもスタジアムが必要であった。アジア最大規模、国内最大のサッカー専用スタジアムである。そして、その候補地となり、実際にスタジアムが建設されることとなったのが、現埼玉高速鉄道線浦和美園駅から徒歩 20 分ほどの場所にある、「埼玉スタジアム 2002」であった。今回は、その場所をとりあげる。

## 1-3 展開

まず、2 章では、「埼玉スタジアム 2002」の概要を紹介する。「埼玉スタジアム 2002」は、アジア最大級、日本で最大のサッカー専用スタジアムである。そして、「埼玉スタジアム 2002」の最大の強みである、1 年間の観戦者数について、言及する。2015 年度の毎試合平均観戦者数、また、1 年間の「埼玉スタジアム 2002」での観戦者数が、「埼玉スタジアム 2002」のもつ社会的効果である。

3 章では、「観る」スポーツと社会的効果について、その言葉の意味を言及していく。本論でスタジアムについて扱うため、まずその前提となる「する」スポーツと「観る」スポーツの区別をおこなう。「する」スポーツとは、スポーツへの参加から始まる。対して、「観る」スポーツとは、「する」スポーツが前提となるものである。スポーツを「する」個人、もしくは団体を「観る」ということである。また、スポーツを「観る」には場所が必要となる。それが「スタジアム」である。スポーツを「観る」場所であるスタジアムに「社会」ができるのである。また、3-2 では、今回議論の中心となる、社会的効果という言葉、本論の中ではどう定義づけるのかを論じる。社会的効果という言葉の定義はあいまいである。それゆえ、経済的効果が数値化しやすく、表しやすいのとは反対に、社会的効果はどうしても表現するのが難しい。そこで、今回は、「スタジアム」を訪れる観戦者の数を、社会的

効果とする。それにより、2章で言及した「埼玉スタジアム2002」の年間観戦者数が、「埼玉スタジアム2002」のもつ社会的効果として表すことができる。本論では、イベントの内容になるべく左右されないよう、Jリーグの観客者数のみでスタジアムの社会的効果を比較している。

4章である。4章では、「スタジアム」の問題点をよりわかりやすくするために、スタジアムを分類して分析する。まずひとつめが、「都市型」である。「都市型」スタジアムの特徴は、政令指定都市に位置すること、そして、収容可能客数が35,000人以上であることとした。では、「地方型」はどうか。「地方型」の特徴は、規模が小さく、スタジアム単体のものが少ないことにある。よって、何らかの複合施設と併設している。ここでは、長野県松本平広域公園・信州スカイパークの例をとりあげてすすめていく。「地方型」を細かく分析するとどうなるのか。それは、4つの型に分類する沖縄県の事例を用いて展開していく。沖縄県では、現在Jリーグ規格に準ずるサッカースタジアムを抱えていない。よって、今後の新スタジアムの建設をすすめているのである。そのなかで、さまざまな吟味をした結果、多目的利用ができる、いわゆる「都市型」のスタジアム建設は厳しいことが分かった。よって、複合施設を整備する案となる。ここでは、その複合施設を整備する型を4つに分類している。この分類によって、「地方型」が生き残る術を提示し、また、その地域の特性、スタジアムに合わせた型を選択することが可能となる。

5章である。5章では、対象地である「埼玉スタジアム2002」に話を戻す。この章では、「埼玉スタジアム2002」の問題点を指摘する。まず、問題点を指摘するにあたり、4章で論じた型に、「埼玉スタジアム2002」を分類することから始める。しかしながら、「埼玉スタジアム2002」は、「都市型」に分類されうるにも関わらず、「地方型」のような問題点を抱えていた。そして「埼玉スタジアム2002」を含め、FIFAワールドカップ日韓共同開催大会時に、会場となった多くのスタジアムで、共通点がみつかると。この共通点から、「都市型」にあてはまるように思える。しかしながら、「地方型」が抱える問題点も多くある。これにより、これらのスタジアムは、また違った分類の仕方をする必要がある。

また、5章では、具体的に「埼玉スタジアム2002」の問題点にも触れていく。まず、実際に現場を見ることでそれを検証する。つぎに、実際の人口の変化を分析する。さらに、この地域では、「埼玉スタジアム2002」完成後、「みそのウイングシティ」という土地計画がすすんでいる。これにより、浦和美園駅から「埼玉スタジアム2002」の間の地域もゆくゆく、ほとんどすべての土地が、住宅密集地と化してしまう。よって、日本最大の「埼玉スタジアム2002」の社会的効果が発揮できる可能性が極めて低い。これが、「埼玉スタジアム2002」の抱える大きな問題点である。

最後に、6章である。ここでは5章で浮き彫りとなった「埼玉スタジアム2002」の問題点を考慮し、今後このようなスタジアム建設がなされないようにするために、解決策を提示する。具体的には、「市立吹田サッカースタジアム」の例を取り上げた。「市立吹田サ

サッカースタジアム」は、2015年10月に完成した、日本でいま最も新しいスタジアムである。これが、考えうる最も良い新都市形成型のかたちである。

## 2. 埼玉スタジアム2002

### 2-1 埼玉スタジアム2002 概要

「埼玉スタジアム2002」という名称からもわかるように、2002年 FIFA ワールドカップ日韓大会招致に向けて、日本最大規模のサッカー専用スタジアムとして完成した。そして、その名の通り、日本と韓国が2002年に共同で開催した FIFA ワールドカップの会場のひとつとして、使用された。それは、2020年東京オリンピックのサッカー会場としても、使用が予定されている。「埼玉スタジアム2002」は、埼玉県さいたま市緑区に位置し、埼玉高速鉄道線浦和美園駅から徒歩およそ20分である。日韓ワールドカップ以降は、Jリーグ1部、いわゆるJ1に所属する、浦和レッドダイヤモンズのホームスタジアムとして、使用されている。また、サッカー日本代表の試合でもたびたび使用され、地元のサポーターのみならず、全国のサポーターが観戦に来る、日本最大のサッカー専用スタジアムである。

アクセスを見てみよう。東京駅から約40分、羽田空港駅からも約80分の場所にある。また、最寄り駅の浦和美園駅からだけでなく、JR浦和駅、東浦和駅、東部スカイスリーライン北越谷駅からも臨時のシャトルバスが出ている。

約30haという広大な「埼玉スタジアム2002公園」には、「埼玉スタジアム2002」を主要施設として、サブグラウンドが3面（天然芝2面、人工芝1面）、そのうちフットサルコートが2面と、サッカー環境を主軸とした公園である。公園西側の「水の広場」や「もみの木の広場」は、憩いと安らぎの場がある。また、一周2.2kmのランニングコースも設置されている。<sup>2</sup>

以下、スタジアムの写真と、簡単に概要をまとめたものである。



<sup>2</sup> 埼玉スタジアム 2002 ホームページ参照 <http://www.stadium2002.com/>



表 3 : 「埼玉スタジアム 2002 施設概要」

特徴	アジア最大級・日本で最大のサッカー専用スタジアム
観客席数	63,700(車椅子席 150 席含む)
天然芝ピッチ	68.0m×105.0m
ピッチ照明	平均 2,000 ルクス(ハイビジョン放送対応)
大型映像装置	2 基(たて 10m×よこ 20m で南北のサイドスタンドに設置)
エレベーター	11 基(車椅子等対応エレベーター7 基含む)
エスカレーター	9 基
その他	備蓄倉庫、雨水利用設備、太陽光発電
所在地	〒336-0972 さいたま市緑区中野田 500
管理・運営団体	(公財)埼玉県公園緑地協会

(写真、表 3 とも <http://www.stadium2002.com/stadium/index.php> より引用)

## 2-2 埼玉スタジアム 2002 の観客者数

では、ここで「埼玉スタジアム 2002」の周辺をみていこう。前述したとおり、「埼玉スタジアム 2002」は、埼玉県さいたま市緑区中野田という地区に位置する。文末に参考資料として、地図を添付しているので、参照していただきたい。スタジアムのすぐ西側には、東北自動車道が通っている。浦和料金所もすぐ近くに位置している。また、南側には、埼玉高速鉄道線の浦和美園駅がある。そこから、歩行者専用通路が通っている。それは、浦和美園駅からスタジアムに向かって、車両基地東側沿いに伸びている。そこには、車両基地東側の柵に沿って、ホームスタジアムである、浦和レッドダイヤモンドズのフラッグやコレオグラフィーが、数多く飾ってある。また、試合開催時には、歩行者専用通路に沿って、出店や屋台が多く出店されるのも特長である。

浦和美園駅周辺は、「埼玉スタジアム 2002」完成以降、大きな開発を遂げている。2006 年には、浦和美園駅近くに、ジャスコ浦和美園(現・イオンモール浦和美園)がオープンした。2012 年には、そのイオンモール浦和美園の目の前に、さいたま市立美園小学校が開校した。また、人口の面でも同様のことが言えるだろう。とくに、駅以南の地域では、人口が急激に増加していることがわかっている。これは後ほど言及する。

「埼玉スタジアム2002」は、どうなのか。まず、以下の表4は、2002年以降のJリーグ、浦和レッドダイヤモンドズ主催試合の観客者数推移である。

年	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008
試合数	15	15	15	17	17	17	17
合計	394,445	432,825	549,903	669,066	774,749	793,347	809,353
平均	26,296	28,855	36,660	39,357	45,573	46,667	47,609
年	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
試合数	17	17	17	17	17	17	17
合計	751,555	678,994	576,477	622,772	630,701	603,770	658,668
平均	44,210	39,941	33,910	36,634	37,100	35,516	38,745

表4 (<https://data.j-league.or.jp/SFTP01/>より作成)

このように、「埼玉スタジアム2002」には、毎試合平均 35,000 人以上の人が観戦に来ている。また、年間を通して、少なくとも 60 万人近い人が訪れていることになる。もちろん、サッカー日本代表の試合も年間 5 試合以上は、「埼玉スタジアム2002」で行われている。よって、さらに多くの観戦者が訪れていることになる。

また、以下の表5も参考にしたい。こちらは、J1に所属するチームのホームゲームの観客数である。2015年度のデータである。スタジアムの収容可能人数は、スタジアムによって格差が出てしまうのは当然である。しかし、「埼玉スタジアム2002」をホームスタジアムとしている、浦和レッドダイヤモンドズの年間合計観客者数、および1試合平均観客者数が、他のチームと比較して各段に多いことは一目瞭然である。2位のFC東京とは、年間合計観客者数で約17万人もの差が出ている。ちなみに、FC東京が使用しているホームスタジアムは、味の素スタジアムである。味の素スタジアムは、収容可能客数を49,970人としている<sup>3</sup>。

チーム名	仙台	山形	鹿島	浦和	柏	FC東京	横浜FM	川崎F	湘南
合計	253,705	170,518	279,185	<b>658,668</b>	185,609	489,336	411,759	356,976	207,539
平均	14,924	10,030	16,423	<b>38,745</b>	10,918	28,784	24,221	20,999	12,208
チーム名	甲府	松本	新潟	清水	名古屋	G大阪	神戸	広島	鳥栖
合計	192,042	285,992	372,908	251,644	276,082	271,984	276,512	278,499	228,644
平均	11,297	16,823	21,936	14,803	16,240	15,999	16,255	16,382	13,450

表5 (※各チーム名は簡略化。) (<https://data.j-league.or.jp/SFTP01/>より作成)

上記の表4、5からわかるように、近年では毎試合平均して、35,000人以上の観戦者が訪

<sup>3</sup> <http://www.ajinomotostadium.com/do/do01/index.php>より。

れていることがわかる。浦和レッドダイヤモンズがホームスタジアムとして使用している「埼玉スタジアム2002」は、Jリーグの中でも最も観戦者が訪れるスタジアムである。つまり、「埼玉スタジアム2002」は、Jリーグのスタジアムの中で、もっとも社会的効果をもつスタジアムであるといえる。しかしながら、残念なことに、「埼玉スタジアム2002」を含め、日本の多くのスタジアムでは、その社会的効果を発揮できる環境ではない。では、まず何をもって社会的効果と呼ぶのか。さらには、日本の多くのスタジアムがもつ問題点とは、何なのか。以降、論じていく。

### 3. スポーツによる地域への社会的効果についての先行研究

#### 3-1 「観る」スポーツ

ここでは、本論において焦点とする、スタジアムの捉え方について整理しておく。

スポーツには、「する」スポーツと「観る」スポーツの2つの側面がある。「する」スポーツとは、言うまでもなく、選手となって何か特定のスポーツをするのである。サッカーや野球、ラグビーやバスケットボールなど、チームが必要となるものでもよい。もちろん、ランニングやジョギング、筋肉トレーニングなど、一人で行うことできるものも含める。「する」スポーツによる地域づくり、地域活性化、すなわち社会的効果を図る場合は、何らかのチームを作ること、団体やイベントが手っ取り早いだろう。それにより、地域のなかで小さな社会が生まれる。ここでの社会とは、二人以上の人間の集まりを表す。また、「する」スポーツによる社会的効果として、鈴木氏はこのように論じている。

スポーツが主に貢献を期待されたのは、犯罪・健康・教育・雇用の各分野におけるパフォーマンス向上である。(中略)ごく単純に言えば、スポーツが上の4分野における地域のパフォーマンスを改善しうるのは、スポーツへの参加が個人の能力開発につながり、個人レベルでの犯罪抑止、健康増進、学業成績やスキルの向上の集積によって、地域の治安、健康、教育達成度、就業率の水準を押し上げると考えられているからだ。その過程で、スポーツにおけるネットワークの形成やボランティア活動が、地域のソーシャルキャピタルに寄与することもしばしば期待される。もちろん、地域レベルでの改善が目に見えるほどになるためには、スポーツによって、ポジティブな変化を起こす個人の絶対数が十分に多くなくてはならない。

(pp75-76、鈴木直文、「プロジェクトをつくる」『スポーツで地域を拓く』)

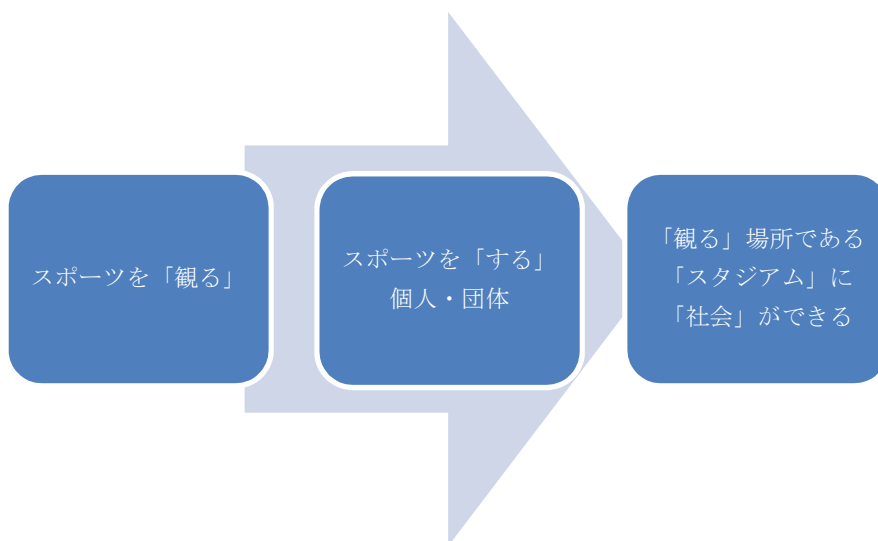
このように、「する」スポーツが持ちうる社会的効果は限定的である。しかし、同時に「する」スポーツによる社会の形成は、その社会に帰属する人々に、同じ矢印を与えるのである。それが、鈴木氏の言う、犯罪・健康・教育・雇用の面で個人に働く。その矢印が、もっと大きな影響力を持つとしよう。すると、その社会からさらなるネットワークの形成や、ボランティア活動などが期待される。これが、「する」スポーツの社会的効果の原点であり、そのプロセスである。



一方で、「観る」スポーツはどうであろうか。「観る」スポーツとは、スポーツを「する」人を「観る」行為のことである。そこには、もちろん、前述したスポーツを「する」人が必要になる。つまり、「する」スポーツあつての「観る」スポーツである。また、「観る」スポーツには、場所および、場所が変わる何か媒体となるものが必要である。ここでいう場所は、本論で述べている「スタジアム」である。また、媒体は、テレビやラジオ、新聞などのメディアを指す。「観る」スポーツに関しては、矢印があるひとつの点に集まるのが特徴的である。ある試合や大会など、個人や団体が「する」ある特定のスポーツに集中するのである。とくに、「観る」場所にあたる「スタジアム」の場合、そこに集まる人の目的はただ一つである。そのスタジアムで行われる、その試合を「観る」ことが目的なのだ。つまり、こちらに関しては、さらに限定的であるといえる。スポーツを「観る」ことができる場所は限られてくる。それがプロスポーツであれば、なおさらのことである。プロであればあるほど、すばらしい舞台が整えられる必要がある。そこにお金が発生するからである。条件に見合った場所は、おのずと限られてくるのだ。大人数収容可能な客席と、選手にふさわしい設備、施設のコンディション維持を可能にするものでなくてはならない。しかし、大きなスタジアムになればなるほど、「観る」という同じ目的で集まる人数は増えていく。それによって、そのスタジアムには、その瞬間のみ「社会」が生まれる。(鈴木、pp72-78)

今回は、そのスポーツを「観る」人によって生まれるある種の「社会」を一つのかたまりととられる。2章で触れたが、「埼玉スタジアム2002」の場合、この「社会」の大きさは、少なくともJリーグの中では一番となる。この瞬間的にできる「社会」を、果たしてどう利用するのか。また、「観る」ことのみが目的となりやすい「スタジアム」に、もし

くはその周辺地域に、どう「社会」を生み出すのか。



### 3-2 社会的効果とは

地域の活性化には、いろいろな手段、方法がある。主なものとして、まず上がるのは観光ではないだろうか。北陸新幹線開通によって、北陸地方は、2015年現在、かなりの注目を浴びている。日本の各地域で、世界遺産の認定がすすみ、ますますの盛り上がりを見せている。先日は、2016年度に開催されるサミットが、伊勢・志摩地域に決定した。現地の人々は、更なる地域活性につながることを期待しているに違いない。そして、日本中が焦点を当てている大きなイベントが控えている。1章でも述べたように、2020年東京オリンピックだ。東京オリンピック開催時には年間訪日外国人数が3000万人を突破することが見込まれ、政府も観光に力を入れていることは明白だ。

オリンピックやワールドカップが誘致され、それに伴う地域活性はよくあることだ。たとえば、新潟県十日町市が例に挙げられる。ここでは、少しだけ扱うことにする。あまり知られてはいないが、2002年FIFAワールドカップ日韓大会時に、同市は、クロアチア代表チームのチャンプ地となった。その後、十日町市は、さらにスポーツに力をいれていくことになる。2009年2月には、第64回国民体育大会冬季スキー競技大会を行った。また、bjリーグ、bcリーグの試合誘致など、積極的に活動している。十日町市は現在でも、「キャンプ地の形成」と「競技力向上」をもとに活動を続けている。<sup>4</sup>

ここではまず、スポーツが地域にもたらす影響を考える。また実際に、スポーツが主となり、地域を作り上げる要因となりえるのかを言及していく。地域をつくるとは、どうゆうことなのか。新しく地域を形成すること、既存の地域を活性化させること、の2つがあ

<sup>4</sup> 東京大学出版会、pp126-142

てはまる。

では、「社会的効果」とは、何なのか。一般的には、経済的効果と社会的効果は常に組み合わせとされる。特に、経済的効果は、数値で置き換えて表すことができる場合が多い。2020年東京オリンピックの経済的効果は、1章で取り上げた。雇用の予測などのように、やはり経済的効果、経済的波及効果は数値で表すことが可能である。もちろん、スポーツの経済的効果とは、スポーツイベントの開催によるものだけではない。しかし、今回は経済的効果に重点を置くわけではないので、具体例はオリンピックのみとする。今回は、スポーツの経済的効果ではなく、社会的効果に焦点を置く。

木田氏が述べているように、「社会的効果」に関する具体的な定義は存在しない。しかし、木田氏は、社会的効果を具体的に言及するために、ひとつの調査に着目している。国土交通省が2004年に行った「国際的スポーツイベント等がもたらす資産を活用した地域活性化に関する調査」をとりあげている。その調査においては、以下の4つが挙げられ、木田氏は③以外が社会的効果にあてはまるとしている。

①都市（地域）アイデンティティの確立

…都市（地域）のイメージの向上および市民意識の変革と連帯感の醸成

②情報発信機能と交流機会の増大

…情報収集能力の増大と情報集積、情報発信能力の増大と地域の新たな魅力の創造

③地域産業構造の再構築

④地域社会に対する教育の推進

…青少年への夢と希望の提供、地域スポーツの活性化・競技人口の増加・参加率の向上、国際感覚の醸成・国際理解の向上、ボランティア・NPO活動の活発化、地域美化意識・環境保全意識の向上、地域ホスピタリティ意識の向上、大規模イベント開催のノウハウの蓄積、大会を成功させた自信・誇り

ただし、いずれの場合も、地域による何からの行動を伴うものであるとし、やはり定義にすることをとどめている。①から④の項目、ならびに詳細を見てもわかるように、やはり「社会的効果」という言葉は定義が曖昧であり、実際にその効果を表現するのが難しい。

では、本論では、どうするか。先の3-1で論じたように、スポーツを「観る」人によって作られる「社会」が焦点である。つまり、この「社会」の大きさが大きければ大きいほど、社会的効果も大きくなると考える。よって、社会的効果を、「社会」の大きさ、つまり、スタジアムに訪れる観客者数で見ることにする。これにより、スタジアムのもつ社会的効果を数値化することができる。そして、スタジアム間での比較が可能になる。(木田、pp.57-68、『スポーツで地域を拓く』)

4章では、スタジアムを分類する。さらに、地域のなかでのスタジアムの在り方を言及する。そのなかで、スタジアムの社会的効果がキーワードとなる。スタジアムは、地域に効果を与える。地域は、スタジアムに効果を与えられる。では、どんなスタジアムであれば、どんな効果を与えられるのか。また、今回の対象地である「埼玉スタジアム2002」の問題点は何なのか。それは、4章以降で言及する。



## 4 スタジアムの分類および分析

### 4-1 「都市型」と「地方型」

「する」スポーツと「観る」スポーツをつなぐものは、間接的にメディアである。無論、メディアは、より多くの人々へとそれを発信する。メディアの発達により、地球の裏側で行われているサッカーのW杯予選の途中経過でさえ、リアルタイムで知ることができる。しかし、実際に選手がプレーし、ファンの応援が飛び交い、感覚で触れることができるのは、その場だけである。結果や報道では伝えきれないものがある。競技場、スタジアム、ドーム、球場、アリーナ、体育館などさまざまな呼ばれ方をする。今回は、現地でスポーツを「観る」ということ、その場所に焦点をあてる。また、ここではプロスポーツ選手がスポーツを行い、観客が集まる場所を統一して「スタジアム」と呼ぶことにする。

日本には、大小さまざまなスタジアムが存在する。ある特定のチームを応援している人にとっては、そのチームのホームスタジアムを思い浮かべることだろう。それ以外の人でも、学生時代に実際にプレーしたスタジアムや、応援に行ったスタジアムなど、人それぞれ自分が思い描くスタジアムがあるはずだ。

では、スタジアムをいくつかの枠組みに分類して見てみよう。スタジアムを分類することで、類型ごとの利点や問題点、またその解決策を炙り出すことが簡単になる。また、今回は、「埼玉スタジアム2002」が属する類型の解決策を見つける。そのためにいくつかの類型に分け、「埼玉スタジアム2002」が、どの類型に当てはまるかを考えていく。まずは、スタジアムの規模、その地域での役割などを含め、1.「都市型」2.「地方型」に分類する。

#### 1. 「都市型」

…政令指定都市、またはそれに準ずる都市に存在し、収容可能客数が35,000人以上であること。

#### 2. 「地方型」

…上記1.「都市型」にあてはまらないもの。ただし、プロ野球、およびJリーグいずれかのホームスタジアムとして使用されているもの。

以上のように、まずは簡単に2つの型に分けてみた。では、それぞれの特徴と、具体的にどのようなスタジアムが以上にあてはまるのかを言及していく。

#### 4-1-1 「都市型」

日本には、20都市に現在政令指定都市が指定されている。その政令指定都市におかれ、

プロ野球やプロサッカーリーグのホームスタジアムとして使用されているスタジアムがいくつかある。今回は、そんなスタジアムの中から、わかりやすく、日本を代表する5つをとりあげる。それは、一般に「5大ドーム」と呼ばれているスタジアムである。札幌ドーム、東京ドーム、ナゴヤドーム、大阪ドーム（京セラドーム大阪）、福岡ドーム（ヤフオク！ドーム）の5つである。実際に、これらのスタジアムは、スポーツ以外で使用されることも多い。他のスポーツの大会や企業の展覧会、アイドルグループのコンサートや海外歌手のライブなど、様々な催し物で使われる。では、1つのスタジアムを、それぞれひとつひとつを、特徴とともに、簡単に紹介する。

①札幌ドーム（HP <http://www.sapporo-dome.co.jp/index.html>）

世界でも数少ない、サッカーと野球の2つのプロチームの本拠地となっている。

札幌駅から約25分。新千歳空港から約45分。

最大収容客数：53,738人 野球時収容客数：42,270人 サッカー時収容客数：41,983

人

②東京ドーム（HP <http://www.tokyo-dome.co.jp/dome/>）

最大収容客数：55,000人 野球時収容客数：約46,000人

東京駅から約10分。新宿駅から約15分。

周辺施設を含め、東京ドームシティと名付け一つの行楽施設としている。

③ナゴヤドーム（HP <http://www.nagoya-dome.co.jp/>）

名古屋駅から約20分。栄町駅から約15分。

最大収容客数：40,500人 野球時収容客数：38,100人

④京セラドーム大阪（HP <http://www.kyoceradome-osaka.jp/>）

大阪駅から約20分。梅田駅から約15分。

最大収容客数：55,000人 野球時収容客数：36,154人

⑤ヤフオク！ドーム（HP <http://www.softbankhawks.co.jp/stadium/>）

博多駅から約25分。天神駅から約20分。

最大収容客数：38,500人

これらのような「都市型」のスタジアムの特徴は、メインとなるスポーツの試合以外での使用頻度が高いことである。また、大都市近郊にあるため、集客もできやすく、複合施設建設の足かせとなる理由もない。よって、周辺には、大型ホテルやショッピング施設が併設されている。これによって、「都市型」のスタジアムは、もはやスポーツを「観る」ための場所から、大型ホール、さらには観光名所へと変容している場合が多い。さらに、「地方型」と比較して、地域との関係性重視ではない。もちろん、ホームチームとの関係、そのファンとの関係は重要であるが。

#### 4-1-2 「地方型」

一方で、「地方型」はどのようなスタジアムがあてはまるのであろうか。今回は、まず、1つ例を挙げ、そのスタジアムを中心に話をすすめる。それは、長野県松本平広域公園・信州スカイパーク内に位置する、「アルウィン」と呼ばれるスタジアムである。なぜ今回、このスタジアムを代表例として取り上げるのか。それは以下の条件にあてはまるからである。

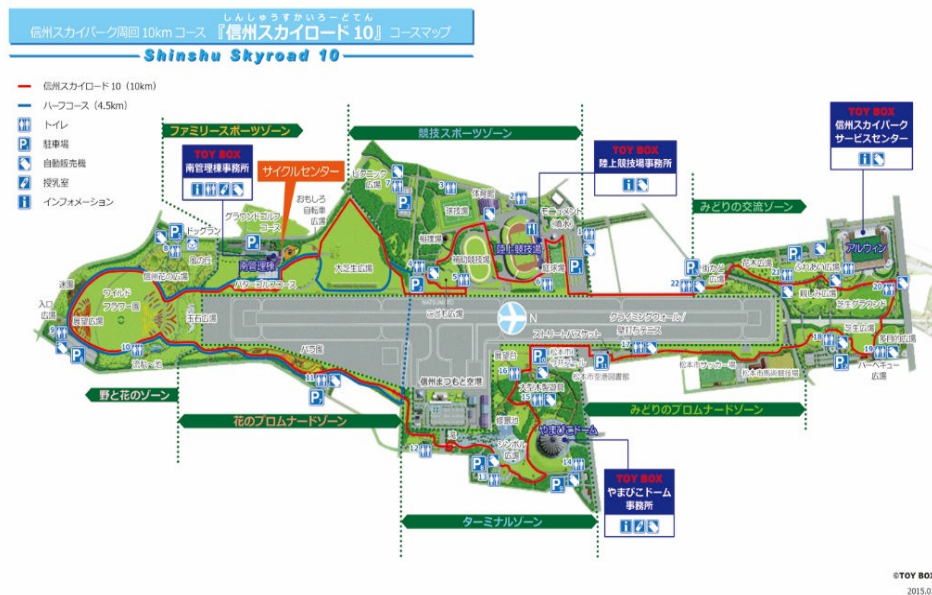
- ・「都市型」ではない。収容可能客数が 35,000 人以下であること。
- ・しかしながら、近年スタジアムの稼働率が、Jリーグでもトップクラスであること。
- ・以下で述べる、「地方型」の特徴にあてはまること。

長野県松本平広域公園・信州スカイパーク内に位置する、「アルウィン」は、2001年に同公園内に開場した。約 20,000 人収容可能なスタジアムである。また、2002年 FIFA ワールドカップ時には、パラグアイ代表のキャンプ地として利用されていた。「アルウィン」という総合競技場の愛称は、アルプスとウィンドいう 2 つの単語からの造語である。言葉通り、日本アルプスを一望できるスタジアムとなっている。アクセスは、JR松本駅から路線バス乗車約 20 分、バス下車後徒歩約 20 分となっている。公共交通機関で訪れるとなると、かなり不便な場所に位置していることがわかる。このスタジアムの特徴は、公園が空港を取り囲んでいるということである。以下の図を参照していただきたい。南北に大きな滑走路が伸びているのがわかる。「アルウィン」が位置するのは、滑走路の北側である。信州まつもと空港は、昭和 40 年に開港。現在では、新千歳と福岡に複数の定期便を構えている。滑走路は、平成 6 年より 2,000m へと延長。これにより幅が広がった、長野県の空の窓口である。以下の表は、「アルウィン」をホームスタジアムとする、J 1、松本山賀 FC の 2015 年度セカンドステージ、ホームゲームの観客動員数推移である。「アルウィン」の収容可能客数は、20,000 人が限界とされている。そんな中、すべての試合で 15,000 人を超えているのは驚くべき数値であることがわかる。ちなみに、1999 年から 2012 年までのすべての J リーグスタジアムの満席率は、48.7% である。このことから、「アルウィン」の毎試合の稼働率が高いことがわかる。(pp.100、出口)

第 1 節	07/11	浦和レッズ	18,605	第 9 節	09/23	モンテディオ山形	15,412
第 3 節	07/19	鹿島アントラーズ	17,625	第 11 節	09/20	ガンバ大阪	18,052
第 5 節	07/29	川崎フロンターレ	15,610	第 13 節	10/03	清水エスパルス	17,371
第 7 節	08/16	名古屋グランパス	17,442	第 15 節	10/24	サガン鳥栖	17,462

表 6

(<https://data.j-league.or.jp/SFTP01/>より作成)



(長野県松本平広域公園・信州スカイパーク HP より)

このように、「アルウィン」は、収容可能客数 20,000 人、アクセスも非常に悪い場所に位置している。しかしながら、Jリーグでの稼働率はかなり高い数値を収めている。また、信州まつもと空港に併設する形態をとり、空港利用者の窓口となる、サポートセンターの役割を同時に担う点も興味深い。

#### 4-1-3 「歴史型」という特異

次に、上記の 1. 「都市型」、2. 「地方型」からは逸脱した型について言及する。今回、本論では、これを「歴史型」と呼ぶことにする。「歴史型」の特徴は、建物自体の歴史だけでなく、その地で開催される大会もまた歴史が長いことが条件である。日本において、これに分類されるものは少ない。また、その多くは、立地条件、収容可能客数を含め、「都市型」に分類される可能性が極めて高い。さらには、欧州にある多くのサッカースタジアムは、これにあてはまる。以下、主な 2 つを挙げる。

##### ①東京国立競技場（正式名称：国立霞ヶ丘競技場・陸上競技場）

2014 年、一旦その役目を終えた。1964 年東京オリンピック時のメイン会場。

戦後の日本スポーツ界発展に大きく貢献。東京体育館、神宮球場、秩父宮ラグビー場が隣接する、霞ヶ丘・外苑エリアは、プロのみならず、多くの中学生や高校生、大学生の憧れの地として存在。

##### ②阪神甲子園球場

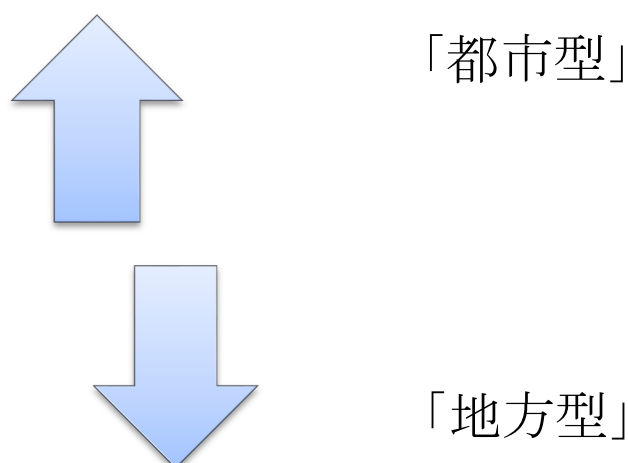
阪神梅田駅から約 15 分。神戸三宮駅から約 25 分。

収容客数：47,541 人

1924 年(大正 13 年)の開設から 90 年以上の歴史を持つスタジアム。

上記の2つのスタジアムにあてはまるのは、まずスタジアムとしての歴史が50年以上あることである。また、①はサッカーの聖地として、②は野球の聖地として長年多くの人々に愛されてきた場所である。このような場所は、第二次世界大戦を味わった我が国では数少ない。そのなかで、やはりこの2つのスタジアムは特異なものとして、扱うべきである。今回の、1.「都市型」2.「地方型」の分類からは、敬意を表して除外させていただく。

では、ここまでの、1.「都市型」、2.「地方型」を図にまとめてみよう。



上記の図に簡単にまとめさせていただいた。上矢印が1.「都市型」へ、下矢印が2.「地方型」へ、を表している。簡単に、まとめると、都市に近づけば近づくほど、「都市型」になる。また、収容可能客数が多ければ多いほど、「都市型」になる。逆も同様のことが言える。地方、つまり都市部からのアクセスが悪い場所になればなるほど、「地方型」になる。また、収容可能客数が少なくなればなるほど、「地方型」になっていくのだ。

では、2.「地方型」は、どのようにして存在していけばいいのか。以下の沖縄県の事例を参考にその道を探る。

#### 4-2 沖縄県の事例

今回、ここでは、『Jリーグ規格スタジアム整備基本調査報告書』(2012年3月)のなかで、沖縄県が述べている見解を引用させていただく。現在、沖縄県には、現在Jリーグ規格に準ずる競技場が存在しない。しかし、沖縄県では、毎年観光客の低下時期である冬期には、プロ野球のキャンプ地として使用される。現在12球団あるプロ野球チームの中で、沖縄県でキャンプをするチームは10球団もある。やはり、野球の色が濃く出るのは、沖縄県が米軍統治であった影響であろう。しかし、1993年のプロサッカーリーグ設立以降、日本のプロサッカーの発展は著しい。沖縄県内でも、野球のみならず、サッカーへの波が

激しくなっている。そこで、沖縄県にもプロサッカーリーグに所属するサッカーチームの設立、そして、Jリーグ規格の条件を満たすスタジアムの設立を目指すこととなったのである。

そのうえで、沖縄県の目指すスタジアムは、「地域の象徴」となるサッカースタジアムであるとしている。具体的にはどのようなことなのか。まず、あるべき姿として以下の4つを挙げている。ひとつは、地域への誇りとアイデンティティが高揚すること。ふたつは、交流が活性化し、コミュニティが醸成されること。みっつは、スポーツに対する関心が高まり、県民の健康増進が促進されること。そして、よっつは、新たな経済効果が創出され、地域経済が活性化されること。さいごに、新たな来訪モチベーションが高まり、観光振興が促進されることである。また、スタジアム整備による抽象的な波及効果のイメージとして、さまざまな例を挙げている。まちづくりの核となること、地域振興、観光振興が中心となる。それだけでなく、コミュニティの醸成、雇用の創出、街のイメージ向上などもある。また人材の育成や健康促進などのスポーツ面での捉え方もある。さらには、防災拠点としての働きも期待している。

では、沖縄県には、具体的にどのようなサッカースタジアムが望ましいのか。こちらに関していくつか検討している。以下は、第2章「沖縄県におけるサッカー関連施設のあり方」p104から引用、作成したフローチャートである。



スタジアム単体では、様々な条件を考慮して厳しいことがわかっている。そのうえで、スタジアムを多目的に利用していく案が検討されている。今回は、その内容に関しては割愛させていただくが、結論付けると、沖縄県は2点の理由で断念している。1つは、多大なコストがかかることである。サッカースタジアムには芝生が必要不可欠となる。多目的利用となると、精度の高い芝生の状態を維持するためには、さまざまな手法や仕掛けが必要となる。このコストを考慮し、断念している。また、2つめの理由として、イベントやコンサ

ートなど、大規模な集客が見込めるイベントでなければ採算が合わない。そのような規模のイベントを何度も開催することは不可能だとしている。

では、複合施設を整備する案である。沖縄県は研究の中で、以下の4つの型に絞っている。本論では、この沖縄県がまとめた4つの型が、「地方型」としたスタジアムの在り方を分類するものであるとする。では、その4つの型を1つずつみていこう。

まず、①交通交流拠点併設型である。特徴は、観光客の拠点となる施設とスタジアムを併設することである。これは、観光産業が盛んな沖縄県にとって有力となる選択肢のひとつである。沖縄県のねらいは、今後さらに増加させていきたい観光客の拠点となるような施設にすることである。これにより、1年間通じて施設を使用することができる。また、観光客の拠点となるため、観光スポットとしてスタジアムの知名度が上がること推測される。現状、那覇空港が主な拠点場所として機能している。その那覇空港付近に建設することで、その拠点を移し、活性化する狙いである。これに関しては、先ほど例で取り上げた、長野県松本平広域公園・信州スカイパーク内に位置する、「アルウィン」と呼ばれるスタジアムがこれにあたると思われる。

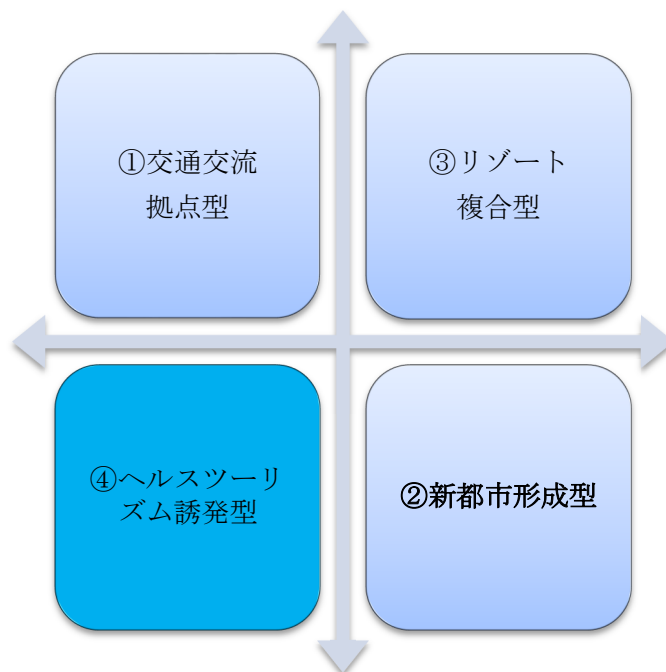
次に、②新都市形成型である。新都市形成というと、大々的に一から都市を作る過程で、スタジアムを巻き込んでいく様相を想像するかもしれない。しかし、そこまで大々的なものではない。ここでは、大型ショッピング施設との併設を表している。では、なぜ「新都市形成型」という名なのか。それは、近年のショッピング施設が、ひとつひとつにイメージやテーマを持った集合体であるからである。自動車交通や公共交通機関での便が良い場所が候補地となる。これにより、試合開催日だけでなく、通常から集客をはかることができる。また、試合当日も、試合のみでなく、ショッピング施設での時間を楽しんでもらうことができる。よって、1日をこのエリアで過ごしてもらうことができるのだ。ただし、週末に混雑が集中してしまう可能性があり、ここが欠点となる。

③リゾート複合型である。こちらに関しても、観光産業が主となる沖縄県に合わせた型となる。大型リゾート施設を主にし、それに併設する形でサッカースタジアムを建設する。これに関しては、かなりの費用が見込まれる。また、リゾート施設となれば、立地条件も重要となる。国内の観光客だけでなく、アジア圏からも観光客が多い沖縄県にとっては、ひとつの案になる。また、MICE 需要もあるため、スタジアム内に会議室やその他スペースを設けるのもひとつの案である。

最後に、④ヘルスツーリズム誘発型である。これに関しては一般に数多く見られるスタジアム、運動競技場にあてはまるものである。沖縄県では、先ほども述べたように、プロスポーツのキャンプ地としての需要がある。この型であれば、既存の運動公園内に建設することも可能である。しかし、他の案に比べて収益性が低い。

以上の①から④を図に表すと以下ようになる。縦軸は上にいくにつれて観光に対する要素が強い。逆に下にいくにつれて、地域密着となる。横軸は、右にいくにつれて費用が拡大する可能性が高くなる。①交通交流拠点型や、③リゾート複合型は、その地域に、あ

る一定以上の観光産業としての土着があることが前提になる。沖縄県の場合は、島国であり、県全体も大きくはない。それゆえ、島に1か所①交通交流拠点型や③リゾート複合型を置いても、機能する可能性は高い。



- ①…那覇空港近郊に建設。沖縄へのツーリズム拠点としての複合施設を目指すもの。
- ②…大型ショッピングセンターと共に建設。試合がある日もない日も多くの人を訪れる総合的なレジャー施設を目指す。
- ③…統合型リゾートと一体に整備する。立地の良い場所が条件となる。
- ④…様々なスポーツコンテンツやスパなど健康関連施設を併設。地域住民の健康増進の拠点。

やはり、日本の多くのスタジアムが、④ヘルスツーリズム誘発型となってしまう。これは、その多くが土地のある場所に建設され、他との関わりを加味せずに作られてきたことにある。地域住民にとっては、健康増進などを目的とした場になり得るであろう。しかし、スタジアムに、スポーツを「観る」ことを目的にして集まる人々、つまり「社会」にとっては、スタジアム以上の魅力となるものが存在するとはいいがたい。そうになると、やはり現実的にみて、②新都市形成型が今後日本のスタジアム建設において目指すべき選択肢の第一筆頭となる。

では、上記の①から④の4つの型に、本論で扱ってきたスタジアムを当てはめてみることにする。まず、①交通交流拠点型には、長野県松本平広域公園・信州スカイパーク内に位置するスタジアム「アルウィン」が当てはまる。3-1-2でも紹介したように、長野県松本平広域公園・信州スカイパークは、信州まつもと空港を囲うように立地している。また、「ア



ルウィン」は観光客のためのビジターセンターも兼用している。次に、②であるが、これは東京ドームが当てはまる。たとえば、東京ドーム周辺には、東京ドームシティと呼ばれる施設があり、商業施設も存在している。次に、③である。③には、東京ドームやヤフオク！ドームが当てはまる。東京ドームには、隣接して東京ドームシティホテルがあり、ヤフオク！ドームには、ヒルトン福岡シーホークという、どちらも大型のホテルがそびえたっている。最後に、④である。こちらは、長野県松本平広域公園・信州スカイパークをはじめ、先ほど言及したように、日本の多くの陸上競技場が当てはまる。(沖縄県、第2章「沖縄県におけるサッカー関連施設のあり方」より)

## 5 埼玉スタジアム2002の問題点

ここからはまた、対象地である「埼玉スタジアム2002」に焦点を当てていく。

2章で述べた通り、「埼玉スタジアム2002」は、年間を通じて、少なくとも60万人以上の観戦者を抱えるスタジアムである。3章で論じた「観る」スポーツが生む「社会」による社会的効果でいえば、とても大きな効果を期待することができるのである。しかしながら、「埼玉スタジアム2002」は現状大きな問題を抱えている。その問題がいったいどんなものなのか、5章では具体的に掘り下げていく。

### 5-1 FIFA ワールドカップ日韓共同開催大会の功罪

4章にて、日本におけるスタジアムを分析するにあたり、1.「都市型」と2.「地方型」と大きく2つの型に分類した。では、「埼玉スタジアム2002」はどちらにあてはまるであろうか。1.「都市型」の条件として、2つ上げさせてもらっている。1つめは、政令指定都市、もしくはそれに準ずる都市に存在していることである。そして、2つめは、収容可能客数が、35,000人以上である。まず1つ目の条件であるが、「埼玉スタジアム2002」は埼玉県さいたま市に位置している。埼玉県さいたま市は人口100万人を超える政令指定都市である。よって、基準を満たしている。2つめはどうであろうか。「埼玉スタジアム2002」の収容可能客数は、2章で紹介した通り、63,700人である。無論、条件を満たしている。よって、4章で分類した2つの型の中では、紛れもなく1.「都市型」にあてはまるのである。

しかしながら、ここで少し考えを深めるべきである。4章で1.「都市型」に分類したスタジアムのほとんどが、スタジアムとして独立していた。もしくは、複合施設があり、それとともに成り立っているスタジアムがあてはまる。しかし、「埼玉スタジアム2002」の場合はどうであろうか。たしかに、2章で紹介した通り、年間60万人以上の観戦者が訪れる、Jリーグの中でも1番のスタジアムである。ところが、サッカー専用スタジアムであるがゆえに、他のコンサートやイベントを大々的に行うことができずにいる。また、「埼玉スタジアム2002」公園周辺には、現状何もなく、観戦者は浦和美園駅と「埼玉スタジアム2002」を行き来するのみとなっている。これに関しては、後ほど言及する。そして、なにより、現在の日本には、この「埼玉スタジアム2002」と同じような状況に陥っているスタジアムが複数存在している点を考慮に入れなければならない。

では、どのようなスタジアムが、「埼玉スタジアム2002」と似たような状況におかれているのか。それは、2002年に開催された、FIFA ワールドカップ日韓共同開催大会の際に会場となったスタジアムの多くである。当時、日本国内では全国のスタジアムから10カ所がワールドカップのスタジアムとして、使用されていた。「埼玉スタジアム2002」も会場となり、実際に日本代表対ベルギー代表や、ブラジル代表対トルコ代表の準決勝を含

め、4試合もの試合が行われたのである。以下、表7は、日韓ワールドカップの試合会場となったスタジアムである。これをみると、まず⑨のノエビアスタジアム神戸以外は、収容可能人数が35,000人を超えていることがわかる。また、①札幌ドーム、②ひとめぼれスタジアム宮城、③デンカビックスワンススタジアム、⑤埼玉スタジアム2002、⑥日産スタジアム、⑧ヤンマースタジアム長居、⑨ノエビアスタジアム神戸と、実に10カ所中7カ所のスタジアムが、政令指定都市、もしくはその近辺に存在している。また、⑥日産スタジアムと⑧ヤンマースタジアム長居を除く、8カ所のスタジアムの完成年月に注目してもらいたい。明らかに、8カ所とも、日韓ワールドカップのために建設されたものである。

さらに、詳しく見ていこう。まず②のひとめぼれスタジアム宮城である。このスタジアムは、先日、日本を代表する某アイドルグループによる、2011年3月11日に起きた東日本大震災の復興コンサートが行われた場所である。このスタジアムは、宮城県総合運動公園内に位置している。また、③デンカビックスワンススタジアムも同様である。こちらも、新潟スポーツ公園内に位置している。新潟スポーツ公園内には、2009年に30,000人を収容可能な野球専用スタジアムも完成している。また、2007年からは、東北電力が、2013年からは、デンカ株式会社が、このスタジアムのネーミングライツを取得している点も注目すべき点である。整理してみると、スタジアム単体ではなく、公園に属するスタジアムは、以下の10カ所のうち7カ所もある。上記の通り、②のひとめぼれスタジアム宮城は、グランディ・21 宮城県総合運動公園、③のデンカビックスワンススタジアムは、新潟県スポーツ公園内にある。また、⑤の「埼玉スタジアム2002」は埼玉スタジアム2002公園、⑥の日産スタジアムは、新横浜公園、⑦のエコパスタジアムは、小笠山運動公園エコパ、⑧のヤンマースタジアム長居は、長居公園、そして、⑩の大分銀行ドームは、大分スポーツ公園内位に位置している。10カ所のなかで、ネーミングライツを他に取得されているスタジアムは、③⑥⑧⑨⑩と5カ所もある。

	スタジアム名	完成年月	収容可能人数
①	札幌ドーム	2001年5月	42,300人
②	ひとめぼれスタジアム宮城	2000年3月	49,133人
③	デンカビックスワンススタジアム	2001年3月	42,300人
④	県立カシマサッカースタジアム	2001年5月改修	41,800人
⑤	埼玉スタジアム2002	2001年7月	63,700人
⑥	日産スタジアム	1997年10月	72,370人
⑦	エコパスタジアム	2001年3月	51,349人
⑧	ヤンマースタジアム長居	1996年5月	50,000人
⑨	ノエビアスタジアム神戸	2001年10月改修	30,132人
⑩	大分銀行ドーム	2001年3月	40,000人

表7

「2002ワールドカップメモリー 日本&韓国の開催地」『日産スタジアム』

<http://www.nissan-stadium.jp/worldcup/kjplace.php>

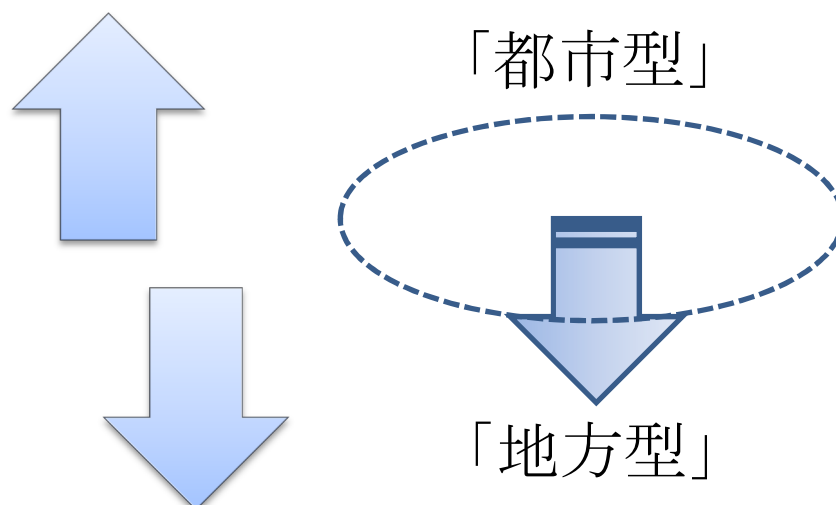
以上のことからわかるように、2002年に開催された、FIFAワールドカップ日韓共同開催大会の際に会場となったスタジアム10カ所には多くの共通点がある。

#### <共通点>

1. 収容可能客数が35,000人以上であること（9カ所）
2. 政令指定都市、もしくはその近辺に位置すること（7カ所）
3. 日韓ワールドカップの開催に向けて建設されたこと（8カ所）
4. スタジアム単体ではなく、公園内に位置していること（7カ所）
5. ネーミングライツを取得されていること（5カ所）

この共通点から言えることは、1.と2.からは、「都市型」のスタジアムに当てはまるということである。しかしながら、一概に「都市型」に含めることができないのである。なぜなら、共通点3.にある通り、日韓ワールドカップ開催に重点を置いて、建設がすすめられた。もちろん、ワールドカップ終了後のことも考慮され、その多くが共通点の4.である、運動公園、スポーツ公園内に建設された。しかしながら、共通点5.にあたる、半数ものスタジアムが、ネーミングライツを取得されてしまっている。これは、スタジアム、もしくはスタジアムを含む運動公園の経営が成り立たないため、ワールドカップで使用されたスタジアムのネーミングライツを一般企業に譲渡することで、収益を得ている。つまり、スタジアム単体では成立していない。このようなスタジアムを「都市型」とは分類することはできない。

以上のことをまとめると、以下の図式として表すことができる。



「都市型」には含まれないが、限りなく「都市型」に近い。しかしながら、問題を抱え、スタジアム単体では成立することができない。このようなスタジアムは、図式内、点線で囲まれた楕円のなかに分類される。「埼玉スタジアム2002」もここに位置する。これらのスタジアムには、4-2 で論じた4つの型のいずれかに分類される必要がある。

## 5-2 周辺の様子

ここからは、周辺の様子を実際にいくつかみてみよう。以下の写真は、すべて 2015 年 12 月現在の様子である。平日の午前 11 時ごろに撮影した。「埼玉スタジアム2002」公園では、この日サッカーの試合は予定されていなかった。また、その他のイベントなども開催されていなかった。「埼玉スタジアム2002」公園内は市民に自由に開放されている。もちろん、「埼玉スタジアム2002」内や、いくつかのグラウンドに無許可で立ち入ることはできない。また、公園内には、2.2km のランニングコースが設置されている。平日の昼間ということもあり、公園内で見かけることができた人影は、すべて年配の方たちであった。そのほとんどがランニングやウォーキングをしている人たちであった。なかには、ロードバイクに乗り、サイクリングを楽しむ年配の夫婦と思われる方たちも拝見できた。また、1人のおばあちゃんは、犬の散歩に来ていた。



まず、一枚目の写真である。これは、「埼玉スタジアム2002」公園の、北門広場に設置されている、バスケットボールゴールである。平日の昼間には、使用している人がほとんどいない。しかし、夕方以降になると、ちらほらと地元の中학생、高校生と思われる学生たちが自転車でやってくる。そして、数名でかなり頻繁に使用しているのも目撃することができる。この場所以外にもいくつか設置されているが、平日の昼間に、使っている者は誰もいなかった。



次に、こちらも、「埼玉スタジアム2002」公園北側にある、第4グラウンドである。このグラウンドは、人工芝であり、国際規格を満たしている。平日朝9時から16時までは、1時間あたり6,400円かかる。また16時以降23時までは、12,400円とかなり高額の設定になっている。オフシーズンとあってか、2015年12月、2016年1月の予約状況は、冬休みがあるにも関わらず、土日以外は埋まっていない。



3枚目は「埼玉スタジアム2002」公園内の東駐車場から浦和美園駅方面を撮影したものである。遠くに、浦和美園駅から徒歩4分に位置するマンション群が見える。センターフィールド浦和美園と呼ばれるマンション群である。手前から、ガーデンランド参番街、ミッドランド弐番街、フロントランド壺番街となっている。この写真からも、マンション群から「埼玉スタジアム2002」公園まで開発が全く進んでいないことが目に見える。





最後は、「埼玉スタジアム2002」公園東入口から、北東側を撮影したものである。背後が「埼玉スタジアム2002」である。こちら側も、更地となっている。工事用の柵で覆われている土地がほとんどである。しかしながら、開発は全く進んでいないことがわかる。

以上のことから、現状開発が進んでいない状態であるため、試合やイベントのない日は、閑散としている。また、「埼玉スタジアム2002」公園の利用も、各グラウンドはコストがかかることにより、稼働率はかなり低い。また、市民に開放されている公園内も、人通りはまばらである。また、いくつかの写真で確認することができるが、「埼玉スタジアム2002」はまるで陸の孤島のような状態になっている。

また、埼玉高速鉄道線、通称埼玉スタジアム線にも問題がある<sup>5</sup>。そもそも埼玉高速鉄道線は浦和美園駅を含めて8駅しかない。さらには、一駅で210円と関東近郊の鉄道各路線においてもかなりの高額路線となる。

### 5-3 人口にみる

ではここで、人口の変化を見てみよう。「埼玉スタジアム2002」周辺は、概要からもわかるように、埼玉県さいたま市緑区中野田という住所になる。また、「埼玉スタジアム2002」以南、浦和美園駅までの地域が、下野田という住所になる。さらに、浦和美園駅以南の地域が、大門という地域になる。これを踏まえて、以下の表8を参考にしていく。以下の表6は、「埼玉スタジアム2002」完成直後からの周辺地域の人口変動をまとめたものである。これをみると、「埼玉スタジアム2002」付近の人口変化が、ほとんどないことがわかる。では、駅周辺はどうか。浦和美園駅周辺は、下野田という地域に当たる<sup>6</sup>。駅周辺は、マンションが立ち並びはじめ、人口もスタジアム完成後から13年間で、約12

<sup>5</sup> <http://www.s-rail.co.jp/line/urawamisono.php> 参照

<sup>6</sup> <http://www.s-rail.co.jp/line/urawamisono.php?go=up&day=weekend> 参照

倍に膨れ上がっている。また、イオンモール浦和美園周辺は大門と呼ばれる地域で、こちらも同じ期間で約2倍に増加している<sup>7</sup>。

埼玉県さいたま市緑区	2002年	2007年	2012年	2015年
中野田	482	451	491	487
下野田	242	251	2278	2913
大門	4824	5339	7108	9545

表 8(<http://city.saitama.jp/006/013/index.html> より引用)

このように、「埼玉スタジアム2002」完成にともなうインフラ整備以降、浦和美園駅周辺地域の人口増加は、明らかにみられる<sup>8</sup>。ところが、「埼玉スタジアム2002」が完成したことによって、その地域周辺が活性化されている様子は見られない。また、「埼玉スタジアム2002」までは、駅から約20分の歩行者専用通路を歩いていかななくてはならない。もちろん試合当日は、歩行者専用通路に出店などが多数ある。しかし、イベントのない日は人通りもほとんどなく、閑散としている。

話は少し変わって、ここには興味深い考察をとりあげる。木田悟氏、高橋義雄氏、藤田光紀氏の共同編集の著書、『スポーツで地域を拓く』の冒頭で、「座談会」をしている。その「座談会」にて、セルジオ越後氏、藤口光紀氏、堀繁氏、御国慎一郎氏が述べている内容をまとめると以下のようなになる。

今のスポーツ施設の特徴はどれも、都市の生活と離れていることである。つまり、その会場に行かないとスポーツをやっていることがわからない状態である。ヨーロッパの場合はスタジアムのすぐ横に飲み屋がある。これは一気に駅に行く人の流れを壊すためにやっている。しかし、日本人は、まるでスタジアムに勤めているかのように試合終了のホイッスルとともに、流れるように、駅へと向かう。事前に帰りの切符まで用意して。これでは、地元にも経済効果も何もない。

また、英国などもそうだが、もともと何もなかったところにスタジアムができる。そして、みんなそこに行きたいから周りに人が住んでいった。「埼玉スタジアム2002」のある浦和美園はもともと、とても辺鄙な場所であった。しかし10年後には大きな町になる。問題は、そこに住宅が全部立て込んでしまったら、結局何も楽しくなく、さっさと駅まで帰ってしまう。

(『スポーツで地域を拓く』、pp41-43)

ここでも述べられているように、たしかに「埼玉スタジアム2002」完成後、浦和美園駅周辺は年々発達している。このことから、徐々に人口が増えていることがわかる。と

<sup>7</sup> <http://www.aeon.jp/sc/urawamisono/access/>参照

<sup>8</sup> 埼玉高速鉄道の開通は、2001年3月。(http://www.aeon.jp/sc/urawamisono/access/)





([http://www.ur-net.go.jp/ur-stage/html/area/wing/map\\_jigyo.html](http://www.ur-net.go.jp/ur-stage/html/area/wing/map_jigyo.html) より)

つまり、上記の引用文内で指摘されている通りである。「埼玉スタジアム2002」周辺地域は、このまま開発計画が進んでいくと、やがてどこにでもあるような集合住宅地となる。もちろん、事業計画では、以下のようなコンセプトですすめている。「スポーツ・交流・自然をテーマにした街です。」と。これに対する異論はない。事業計画地域内にはいくつもの公園設置計画が含まれている。また、「埼玉スタジアム2002」公園を含め、サッカーの試合に考慮した工夫を凝らしている。例えば、浦和美園駅前広場には、「埼玉スタジアム2002」のピッチグラウンドに用いられている芝生とまったく同じものを使用している。また、「埼玉スタジアム2002」公園へと続く道路では、ポールの先にサッカーボールをかたどった街灯を使用している。このような、いくつもの小さな工夫により、日本最大のサッカー専用スタジアムをもつこの地域で、サッカーという特色を活かそうとする働きは見て取れる。( <http://www.ur-net.go.jp/ur-stage/html/area/wing/> )

しかし、問題は、そこではない。先ほども触れたように、浦和レッドダイヤモンズがホームスタジアムとして使用している「埼玉スタジアム2002」には、年間少なくとも60万人以上の観戦客がやってくるのだ。2002年度以降多少の増減はあるが、多い時にはJリーグの試合のみで80万人もの人が訪れていた年もある。ところが、浦和美園駅から「埼玉スタジアム2002」公園までの地域が、このまま住宅密集地となった場合、この最低60万人以上の観戦者を取り逃がすこととなるのだ。これでは、せっかく日本最大のサッカー専用スタジアムをもつこの地域の特徴を活かしきれていない。



この図のように、イオンモール浦和美園が、浦和美園駅からみて、「埼玉スタジアム2002」公園とは反対側にある。もちろん、浦和美園駅からほど遠くはないため、多少の観客者がイオンモール浦和美園を利用することは考えられる。しかし、立地面では、やはり多くの観戦者が浦和美園駅と「埼玉スタジアム2002」との行き来で終わってしまう見解に誤りはない。また、「埼玉スタジアム2002」での試合がない日は、歩行者専用道路を使用する人がほとんどいない。そうすると、「埼玉スタジアム2002」は、まるで陸の孤島のような状態になるのである。つまり、この事業計画は、余った土地を住宅地で埋めるという至極単純なものであり、「スタジアム」を持つという地域の特徴をほとんど活かす

ことができていないのである。であれば、どのような事例がスタジアムを活かしたものの  
のか。どのように「スタジアム」を活かしていけばよいのか。

## 6 社会的効果をもつスタジアムの在り方

6章では、5章で浮き彫りとなった「埼玉スタジアム2002」の問題を、今後他のスタジアム建設で起こらないための解決策を提示する。「埼玉スタジアム2002」の大きな問題点は、60万人もの観戦者を、スタジアム以外での地域への社会的効果に活かせていないことである。では、どのようなスタジアムであれば、この社会的効果を発することができるのか。具体的な例を挙げて説明していく。

### 6-1 目指すべきスタジアム

では、目指すべきスタジアムとは、どのようなものであるか。それをまさしく表してくれる新たなスタジアムが、先日完成した。それは、市立吹田サッカースタジアム(Suita City Football Stadium)である。

2015年10月10日に施工され、万博記念公園に隣接あるスタジアムである。以下、敷地図を参照してもらいたい。北部には1970年の大阪万博跡地がある。太陽の塔でも有名だ。その万博記念公園南部では、開発が進んでいる。そのひとつが、今回取り上げる「市立吹田サッカースタジアム」である。このスタジアムは、2016年度より、Jリーグ1部に所属するガンバ大阪の新ホームスタジアムとして決まっている。また、サッカー日本代表の試合も予定されている。今回、この真新しいスタジアムをとりあげる理由は、以下の2点である。

1. 寄付金で作られた日本初のスタジアムであること
2. 最寄り駅からスタジアムへの経路途中で、商業施設があること

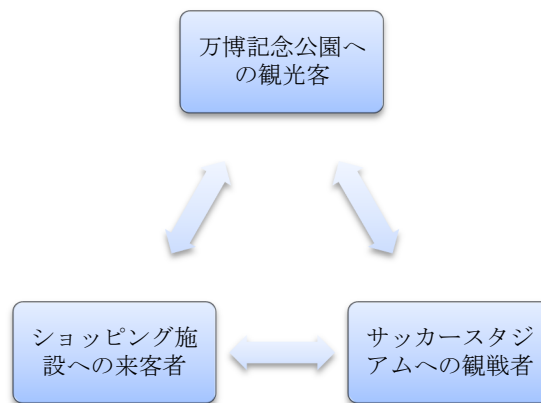
まずは、1つ目についてである。建設の目標募金額は、14,000,000,000(140億)円であった。最終的には、14,085,665,383円もの募金額に達している。サッカースタジアム建設募金として、第3期の2014年4月1日から12月31日の期間に終了している。2012年から開始された募金も、3年かかったが、終了である。寄付に関しては、寄付をした個人、団体に対して、いくつかの特典が付いている。メモリアルカードの発行や、スタジアム内に掲示されるネームプレートの作成、完成したスタジアムの見学など、工夫を凝らしている。

(「スタジアム建設募金団体公式ホームページ」『みんなの寄付金でつくる日本初のスタジアム!』<http://www.field-of-smile.jp/>)



(「EXPOCITY グランドオープン 2015 年 11 月 19 日」『三井不動産』  
[http://www.mitsuifudosan.co.jp/corporate/news/2015/0803/img/201507803\\_08b.jp](http://www.mitsuifudosan.co.jp/corporate/news/2015/0803/img/201507803_08b.jp) より)

2 つ目に関しては、また以上の敷地図に目を移しながら話を進めたい。中国自動車道を挟んで、北側には、観光名所である、万博記念公園がある。その南側に、スタジアム建設とともにすすめられたのが、大型ショッピング施設の建設である。これにより、従来、万博記念公園駅を使用して公園を訪れていた観光客だけでなく、さらに人を呼び込む力を得た。さらには、サッカーの試合開催時には、サッカーのみならず、ショッピング施設の魅力をより幅広い層に知らしめることで、この地に人を呼び戻すことができるのだ。



この図式のように、従来の万博記念公園への観光客、ショッピング施設への来客者、そして、サッカースタジアムへの観戦者という三角関係が出来上がる。これによって、いずれか1カ所に訪れる人々を、他の2カ所へと誘導することができるのだ。つまり、サッカースタジアムに訪れる観戦者がもつ社会的効果は、他の2カ所において発揮される可能性が極めて高いのである。

ところが、この万博記念公園の地域のように、3カ所も揃う場合は、極めてまれである。

もちろん、本論のなかで、最高の事象を挙げるのであれば、これにあたる。しかしながら、今回、この事象を解決策とするのは、難しい。では、どこに焦点をあてるのか。それは、駅とショッピング施設、スタジアムの配置である。以下の航空写真を参考にしてもらいたい。この写真には映ってはいないが、左下端に位置するのが、大阪モノレール万博記念公園駅である。そして、扇状にショッピング施設である EXPOCITY が位置している。



サッカーの試合開催時には、最寄り駅がポイントとなる。大阪モノレール万博記念公園駅である。その駅を利用する観戦者は大多数を占める。その観戦者が、ほぼ確実にショッピング施設を通して、スタジアムへと向かう導線としたのだ。



もちろん、帰路も同様である。これにより、サッカーの試合の時間帯にかかわらず、1日をこのエリアで過ごすことができるのである。Jリーグや日本代表の試合は、90分間である。スタジアムの滞在時間は、およそ3時間前後となる。試合は、午後13~15時開始になる場合と、夜19時から20時の間に開始になる場合がある。いずれの場合でも、ショッピング施設の利用は高まるであろう。これによって、スタジアムへの観戦者がもつ社会的効果は、ショッピング施設へと発揮されるのである。まさしく、この図式こそ、今後のスタジアム建設において1番の焦点となる。



## 6-2 海外のスタジアムの事例

ここからは、「市立吹田サッカースタジアム」に加えて、海外の事例を取り上げる。取り上げる事例の着眼点は、これまで日本のスタジアム建設のなかで、なしえなかった手法である。

まず、1つ目は、イングランドはロンドンにある「エミレーツ・スタジアム」である。これは、イングランド、プレミアリーグに所属する、世界的に有名なアーセナル FC が所有するスタジアムである。以下に簡単に概要をまとめる。

設立：2006年

収容可能客数：60,272人

所有者：アーセナル FC

所在地：Emirates Stadium, Hornsey Road London N5 1BU

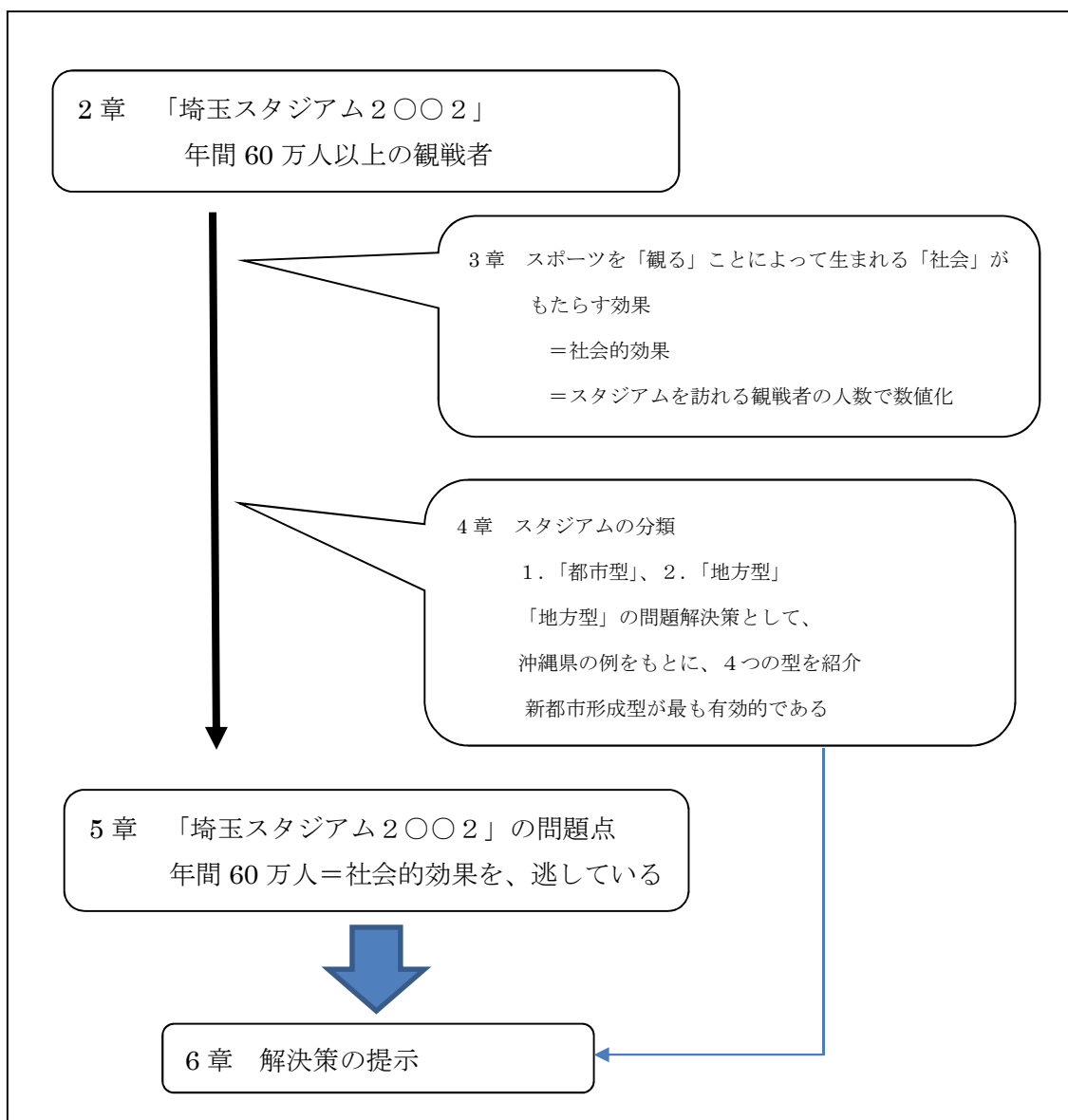
エミレーツ・スタジアムは、イズリントン区と呼ばれる地区にある。旧スタジアムであるアーセナル・スタジアムもまた、この地区であるハイバリーにあった。新スタジアムは、同じ区内の、女性専用刑務所があるハロウェイという地域に建設された。この移転計画が、民間のプロサッカークラブが全額出資して行った都市再生プロジェクトとして前例のないものであったのだ。鉄道車両基地跡地に、エミレーツ・スタジアムを建設した。それだけでなく、スタジアム周辺に低所得者層向けの住宅を建設したのだ。合計約 2,600 戸にのぼる住宅開発のうち、半数を超える約 1,400 戸を低所得者向けとした。これを、事業に含んでいた。これは、「埼玉スタジアム 2002」周辺の土地開発計画とは、全く意味を成すものが違って来る。たしかに、双方とも、スタジアムの周辺が住宅地になるという点では、同じことかもしれない。ところが、このエミレーツ・スタジアムの場合は、スタジアムを所有するプロサッカークラブであるアーセナル FC が直接土地開発計画を行っている。これにより、アーセナル FC サポーターや地元住民のクラブやスタジアムに対する意識が全く異なるのだ。「埼玉スタジアム 2002」周辺地域の都市開発に関しては、「埼玉スタジアム 2002」をホームスタジアムとしている浦和レッドダイヤモンズは、関わっていない。そうした中で行われる開発は、やはりクラブ自身が行ったこの開発とは、意味合いが大きく異なる。

また、ここでもう 1つ、海外の例を紹介する。シンガポールにある、Singapore sports hub (シンガポール・スポーツ・ハブ) という複合施設である。2014年6月にオープンし、都市部から約 20 分の場所に位置する。主となるのは、55,500 人収容のナショナルスタジアムである。しかし、ほかの設備も非常に充実している。図書館、ビジターセンター、ショッピングモール、水泳競技場、多目的室内アリーナなどを併設する。また、スポーツ施設として世界初の PPP(Public Private Partnership、官民連携)事業である。これぞ、まさしく、4章の4つの型から複数があてはまるスタジアムであり、ここでの理想型と呼べるのではないか。(HP <http://www.sportshub.com.sg/Pages/default.aspx>)

## 7. 終章

### 7-1 まとめ

以下、論全体の構成図である。



2章では、「埼玉スタジアム2002」の概要を紹介した。「埼玉スタジアム2002」は、アジア最大級、日本で最大のサッカー専用スタジアムである。そして、「埼玉スタジアム2002」の最大の強みである、1年間の観戦者数について、言及した。2015年度の毎試合平均観戦者数は、35,000人にもものぼる。また、1年間の「埼玉スタジアム2002」での観戦者数は、Jリーグの試合だけで、60万人以上となる。この60万人が、「埼玉スタジアム



ム2002」のもつ社会的効果である。

3章では、本論でスタジアムについて扱うため、まずその前提となる「する」スポーツと「観る」スポーツの区別をおこなった。「する」スポーツとは、スポーツへの参加から始まる。スポーツに参加することで、個人に対して効果が生まれる。犯罪防止、健康増進、学業成績やスキルの向上である。さらに、「する」スポーツの中に「社会」が形成されると、さらなる効果を生む。それが、ネットワークの形成やボランティア活動である。

対して、「観る」スポーツとは、「する」スポーツが前提となるものである。スポーツを「する」個人、もしくは団体を「観る」ということである。また、スポーツを「観る」には場所が必要となる。それが「スタジアム」である。スポーツを「観る」場所であるスタジアムに「社会」ができるのである。また、3-2では、今回議論の中心となる、社会的効果という言葉、本論の中ではどう定義づけるのかを論じた。社会的効果という言葉の定義はあいまいである。それゆえ、経済的効果が数値化しやすく、表しやすいのとは反対に、社会的効果はどうしても表現するのが難しい。そこで、今回は、「スタジアム」を訪れる観戦者の数を社会的効果とすることにした。それにより、2章で言及した「埼玉スタジアム2002」の年間観戦者数約60万人が、「埼玉スタジアム2002」のもつ社会的効果として表せるのである。

4章である。4章では、「スタジアム」の問題点をよりわかりやすくするために、スタジアムを分類して分析した。「都市型」は、政令指定都市、またはそれに準ずる都市に存在し、収容可能客数が35,000人以上であること。「地方型」は、上記「都市型」にあてはまらないものである。ただし、プロ野球、およびJリーグいずれかのホームスタジアムとして使用されているものが条件である。まずひとつめが、「都市型」である。「都市型」スタジアムの特徴は、政令指定都市に位置すること、そして、収容可能客数が35,000人以上であることとした。「都市型」のスタジアムは、自立しているものが多く、またスタジアム自体がさまざまな使われ方をされる。本論で例として取り上げたのは、「5大ドーム」と呼ばれる5つのドームであった。これらのドームは、スポーツの試合としての利用はもちろん、コンサートや胃炎なども開催されることが多い。多目的利用を可能にしているのである。

では、「地方型」はどうか。「地方型」の特徴は、規模が小さく、スタジアム単体のものが少ないことにある。よって、何らかの複合施設と併設している。ここでは、長野県松本平広域公園・信州スカイパークの例をとりあげた。取り上げた主な理由は、「地域型」にあてはまることはもちろんであるが、「地域型」の特色を色濃くもつスタジアムであるからである。また、近年では、このスタジアムの稼働率がかなり高いことから例として取り上げるにふさわしいスタジアムと判断した。

「地方型」を細かく分析するとどうなるのか。それは、沖縄県の事例で扱われている、4つの型に分類することができる。沖縄県では、現在Jリーグ規格に準ずるサッカースタジアムを抱えていない。よって、今後の新スタジアムの建設をすすめているのである。そのなかで、さまざまな吟味をした結果、多目的利用ができる、いわゆる「都市型」のスタジ

ム建設は厳しいことが分かった。よって、複合施設を整備する案となる。では、その複合施設を整備する型を4つに分類した。①交通交流拠点型、②新都市形成型、③リゾート複合型、④ヘルスツーリズム誘発型である。まず、①交通交流拠点型は、特徴が観光客の拠点となる施設を併設することで、ツーリズムの拠点になることである。②新都市形成型は、都市を1から形成するものではない。大型ショッピング施設と併設することで、あたかも新たな都市が生まれるかの如く発展する様子を表している。次に、③のリゾート複合型である。これはスタジアム周辺に大型ホテルを併設し、観光客の集客を見込む。最後に、④ヘルスツーリズム誘発型である。これは、現在日本各地にあるスタジアム、運動競技場にあたる。いわゆる総合運動公園と呼ばれている形である。4つの中でも、①交通交流拠点型と③リゾート複合型は、観光面でのメリットが色濃く見られる。そのため、観光産業に力を入れている地域では、取り入れられている。また、④ヘルスツーリズム誘発型が、現在の日本で最も多い型であることは間違いない。しかしながら、5章で言及するが、④ヘルスツーリズム誘発型で成功するのは難しい。よって、観光産業に頼ることができる地域も限られることから、②新都市形成型が、現代の日本にとって最も有効な型となる。

5章である。5章では、対象地である「埼玉スタジアム2002」に話を戻す。この章では、「埼玉スタジアム2002」の問題点を指摘する。まず、問題点を指摘するにあたり、4章で論じた型に、「埼玉スタジアム2002」を分類することから始まった。しかしながら、「埼玉スタジアム2002」は、「都市型」に分類されうるにも関わらず、「地方型」のような問題点を抱えていた。そして「埼玉スタジアム2002」を含め、FIFAワールドカップ日韓共同開催大会時に、会場となった多くのスタジアムで、共通点がみつかると。その共通点がつぎのものである。まず、収容可能客数が35,000人以上であることである。これは10カ所のうち実に9カ所にあてはまる。次に、政令指定都市、もしくはその近辺に位置することである。これは、7カ所であてはまった。みつつは、日韓ワールドカップの開催に向けて建設されたことである。これも8カ所であてはまった。スタジアム単体ではなく、公園内に位置しているものは、7カ所にあてはまる。最後に、ネーミングライツを取得されているスタジアムは現在5カ所であった。この共通点から、「都市型」にあてはまるように思える。しかしながら、「地方型」が抱える問題点も多くある。これにより、これらのスタジアムは、また違った分類の仕方をする必要があったのだ。

また、5章では、具体的に「埼玉スタジアム2002」の問題点にも触れている。まず、実際に現場を見ることでそれを検証した。試合のない平日の昼間では、「埼玉スタジアム2002」公園を利用するものはほとんどいない。また、浦和美園駅から「埼玉スタジアム2002」までの間は、ほとんどが更地であることが目に見えた。つぎに、実際の人口の変化を分析した。2002年から2015年間の推移である。これによると、浦和美園駅から東川口駅方面の人口は、年々増加している。実に13年間で約12倍になっている。また浦和美園駅周辺も何棟かの集合マンションが立ち並んだ結果、13年間で人口は約2倍となっている。これは、「埼玉スタジアム2002」完成によるインフラ整備の影響である。しか

しながら、現状、「埼玉スタジアム2002」ができたことによる、地域への社会的効果は少ない。なぜなら、地域の人口変動も見て取ることができないからである。

これまでをまとめると、「埼玉スタジアム2002」は、新都市形成型に近い型をしている。しかしながら、浦和美園駅を挟んで、イオンモール浦和美園と「埼玉スタジアム2002」が位置しているため、「埼玉スタジアム2002」の社会的効果が、イオンモール浦和美園へ波及しづらい立地となっている。さらに、この地域では、「埼玉スタジアム2002」完成後、「みそのウイングシティ」という土地計画がすすんでいる。これにより、浦和美園駅から「埼玉スタジアム2002」の間の地域もゆくゆく、ほとんどすべての土地が、住宅密集地と化してしまう。よって、日本最大の「埼玉スタジアム2002」の社会的効果が発揮できる可能性が極めて低い。これが、「埼玉スタジアム2002」の抱える大きな問題点である。

最後に、6章である。ここでは5章で浮き彫りとなった「埼玉スタジアム2002」の問題点を考慮し、今後このようなスタジアム建設がなされないようにするために、解決策を提示する。具体的には、「市立吹田サッカースタジアム」の例を取り上げた。「市立吹田サッカースタジアム」は、2015年10月に完成した、日本でいま最も新しいスタジアムである。このスタジアムの特徴としてまず挙げられるのは、日本初の寄付金で作られたスタジアムであるということである。わずか3年間で、およそ140億円もの寄付金を集めた。また、このスタジアムは、典型的な「新都市形成型」である。万博記念公園に隣接する形で作られたこのスタジアム、すぐとなりには、EXPOCITYというショッピング施設がオープンしている。さらに、ここで注目したいのが万博記念公園駅とEXPOCITY、市立吹田サッカースタジアムの位置関係である。万博記念公園駅、EXPOCITY、スタジアムときれいに並んでいる。これにより、「市立吹田サッカースタジアム」に集まる観戦者の社会的効果を逃がすことなく、EXPOCITYで発揮することができるのである。これが、考える最も良い新都市形成型のかたちである。

## 7-2 謝辞

まず、小学1年生の頃から、サッカーをはじめさせてくれ、当時から何度もサッカー観戦に連れていってくれた両親に感謝を述べたい。卒業研究で「埼玉スタジアム2002」のことを取り上げるきっかけになった。小さい頃は、浦和にある駒場スタジアムに、小学校高学年になってから、「埼玉スタジアム2002」に何度も何度も足しげく通っていた。そして、もちろん、現在も時間さえみつけては、サッカー観戦に行っている。だからこそ、「埼玉スタジアム2002」の地域における、試合のある日とない日の温度差を、身に染みて感じているのである。わたし自身の勉強不足によるところが大きいのは、重々承知していますが、やはり地域という曖昧な分野を研究の対象として取り入れるむずかしさを痛感させられる機会となりました。

卒業研究をすすめるにあたり、さまざまな助言をしていただいた浦野正樹先生、そして、ゼミには参加していないにも関わらず、多くの質問や助言をくださった浦野ゼミのメンバーの方々への感謝の意を、ここで御礼申し上げたく、謝辞とさせていただきます。

#### 参考文献

沖縄県『Jリーグ規格スタジアム設備基礎調査』第2章「沖縄県におけるサッカー関連施設の在り方」、2012年

小林勉『地域活性化のポリティクス』、中央大学出版部、2013年

斉藤健仁『死ぬまでに行きたい欧州サッカースタジアム巡礼』、株式会社エクスマレッジ、2015年

斉藤健仁・野辺優子『欧州サッカースタジアムガイド』、株式会社樫出版社、2006年

大東和美・村井満編『Jリーグ再建計画』、日本経済新聞出版社、2014年

出口順子、「Jリーグにおける集客に関する基礎的研究 満席率に着目して」

藤井純一『地域密着が成功の鍵！ 日本一のチームをつくる』、株式会社ダイヤモンド社、2011年

フットボールサミット議会、『フットボールサミット第22回』、株式会社カンゼン、2014年

渡辺浩『スポーツで地域を拓く』、一般財団法人東京大学出版会、2013年

参考資料1 周辺地図



(Google map より引用)

## 参考資料 2

### スタジアムの社会的効果に関する参考資料と分析内容

渡辺浩『スポーツで地域を拓く』、一般財団法人東京大学出版会、2013年より

木田悟 第1章「地域社会を活かす ―スポーツによる社会的効果とは」 pp.51-70

#### 5. 社会的効果のまとめ 要約

社会的効果は、国や地域で「社会」の捉え方が明確ではない。また、国内外の研究や報告も多くはない。

社会的効果に関心を持つ社会学者アダムス・ブラウンらは、「スポーツイベント開催による経済的効果に関する研究や事例の検証数に比べ、社会的効果に関するそれらの検証数は限られている。」と指摘している。

ジョナサン・ロングとイアン・サンダーソンは、社会的効果を以下の6項目とした。

- ①自己評価と自信向上
- ②地域アイデンティティ醸成による地域社会の結束力強化
- ③地域社会の健康状態改善
- ④健全な青少年育成
- ⑤恵まれない社会層の地位向上
- ⑥地域社会の主導権改善

木田が主導で行った「スポーツを核とした地域活性化に関する調査」では、以下の4項目とした。

- ①地域コミュニティの形成
- ②地域アイデンティティの形成
- ③他地域との交流促進
- ④人材育成

以上を踏まえ、スポーツイベント開催による社会的効果を、1998年 FIFA ワールドカップ、および2002年 FIFA ワールドカップのキャンプ地でアンケート調査、ヒアリング調査を実施した結果、以下の8項目に整理している。

- ①地域情報の発信
- ②地域のスポーツ振興
- ③国際交流の推進
- ④青少年の健全育成
- ⑤ボランティア・NPOの育成
- ⑥地域アイデンティティの醸成

⑦地域活動の促進・地域コミュニティの形成

⑧地域間・地域内交流の促進

以上のように、キャンプ地における社会的効果をまとめている。しかしながら、これらの社会的効果を引き出すには、その準備期間やキャンプ前後の様々な活動が必要不可欠である。いずれにせよ、この社会的効果は、地域が自ら何らかの行動を行わなければ発現しない効果であり、官民一体となった活動を展開する必要がある。